

## 【事業の実施方針】

山口県では山口県野菜等供給力向上対策協議会と連携し、三重県育成の「かおり野」を有望品種としている。ついで、「かおり野」の現地実証ほを設置し、現地適性を確認するとともに、先進地調査を行い、山口県版栽培マニュアルを作成し、普及を図る。

## 【成果目標及び達成状況】(H25. 2月末現在)

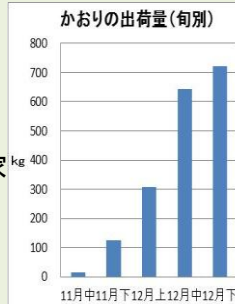
平成23年度(基準年): 0ha  
**平成24年度** : **1ha**  
 平成27年度(目標年): 8ha

## 新技術の内容

早生性で連続出蓄性があり年内収量が多く、糖度が高く、炭そ病に強い特性があるイチゴ「かおり野」の普及定着を図る。  
 (三重県が平成22年に品種登録。山口県では22年から農林総合技術センターで栽培試験開始)

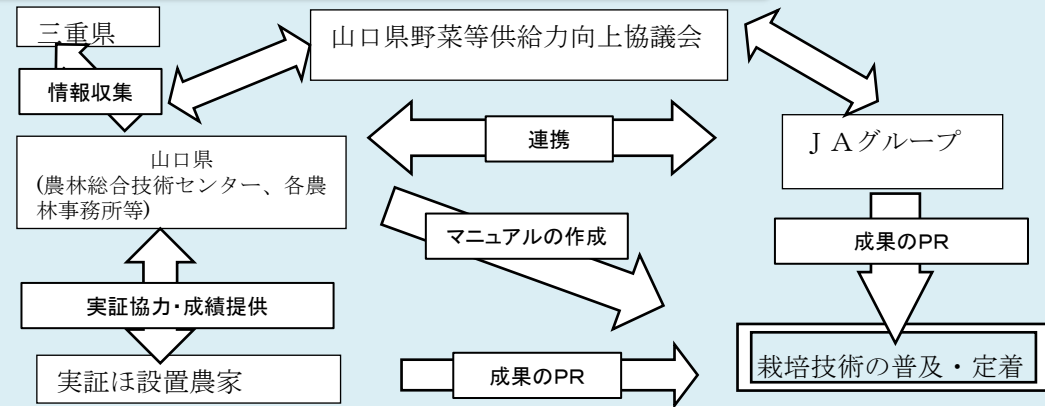
## 技術実証の成績等 (H24)

- ・出荷は12月から本格化し、1月の収量は1t/10aを超えるなど厳寒期の収量は確保された。
- ・糖度は比較的高く、推移した。
- ・農家のかおり野に対する期待は高く、25年度は95戸(25年2月)の農家が栽培する予定である。(本県の30%程度の農家が栽培予定。)



(年内全出荷量)

## 実施体制図 (研究・行政等との連携、役割分担等)



## 技術実証及び技術普及における課題 (H24)

- ・草勢が強く、樹が暴れ気味となり果形の乱れたり、果実品質が不安定なほ場があった。
- ・灌水量のコントロールが悪く、果実品質が不安定なほ場があった。
- ・1月中旬に全体的に食味の低下が見られた。
- ・果梗枝が長く、円滑な収穫作業に支障をきたすほ場があった。
- ・25年度は栽培農家が大幅に増えるので、効率的な技術普及に取り組む。

## 24年度事業の取組内容

### 【実証ほ設置検討会1回(7月)】

### 【先進地視察 8月、2月】

農業革新支援専門員がコーディネートし、普及指導員で調査チームを組み育成県である三重県の取組について調査。

### 【実証ほ設置(4普及センター:13ほ場)】

### 【現地巡回調査】

農業革新支援専門員と農林総合技術センター栽培担当者等が現地巡回し、普及指導員と栽培技術について現地検討。

### 【検討会(3回)(9月、11月、2月)】

農業革新支援専門員がコーディネートし、実証ほの成績、先進地調査、農林総合技術センターの試験等を検討し、現地適応性の確認を行うとともに、次年度に向けた取組について協議。



## 次年度に向けた課題への対応方針

- ・実証ほは県内各地に設置し、現地適応性を確認するとともに、適正な草勢管理技術の確立を図る。
- ・25年度は栽培農家が大幅に増加するので、各地の実証ほを中心に現地研修等を行い、技術の周知徹底を図る。
- ・三重県との連携を強化するとともに、九州沖縄農業研究センター等への視察を行い、新技術等の習得を図る。
- ・JAグループと連携して、市場の認知度の向上を図るとともに、消費者へのPRを実施する。
- ・農業革新支援専門員が中心となり、実証ほの成果、三重県の技術等を参考に山口県としての栽培マニュアルを作成し、技術の普及定着を図る。